



作業の力で支える、その人らしい終焉

講師：三木恵美

所属：関西医科大学リハビリテーション学部

日本作業療法士協会はホームページで「作業療法は・・・その人らしい生活を支援する」と公表している。「その人らしさ」とは、いったいなんだろうか。

Wilcock & Townsend の Doing-Being-Becoming-Belonging をご存知だろうか。生き延びること (survival)、健康でいること (health) は、なにかをすることで (doing)、何者かになり (being)、何者かになっていき (becoming)、どこかに所属する (belonging) ことであり、being-becoming-belonging の全てを満たす doing がその人にとっての作業だという。つまり、作業療法では「その人らしさ」を、「なにをする人か」「なにをしてきた人か」で表せるのではないだろうか。

作業療法士は、クライアントがたとえ終末期や看取り期にあっても「作業的存在 (Occupational Being)」であり続けることを支える専門職である。最期までクライアントが「したい、する必要がある、することを期待されている」作業に、取り組む (Perform) あるいは結びつく (Engage) ことを支援する。そうすることで、クライアントが最期まで「その人らしく」生きることを支える。

終末期における作業の効果は以下の 10 項目に分類され、作業の持つ意味への深い理解と気づきが、作業療法の専門性の発揮に重要だといわれる。

- 喪失体験の多い生活の中で、作り上げる喜びなど創造的な体験を提供し、消失から創造へと転換を促す。
- 苦悩や抑圧された感情を安全な形で発散することにより心理的な浄化や鎮静作用をもたらす。
- 情緒的・感情的レベルに直接働きかけ、言語を越えたコミュニケーション手段、感情表現手段を提供する。
- 回想を誘発し、「快」刺激のライフレビューを促す。
- 生活リズムを整え、季節感や楽しみを与える。
- 作品を後世に残すことで、自分のエネルギーが生き続けるという安心感や自己の存在の確認を与える。
- 有形、無形の財産の伝承の場を提供する。
- 作業に集中することにより、痛み、倦怠感や死への恐怖、こだわりからの転換を促す。
- 他者との交流を促進し、孤独感を和らげ、役割を与える。
- 自律心、自尊心を高め、廃用性の機能低下を防ぐ。

医療的ケアの重要性が増し極限状態にある終末期だからこそ、「その人らしく」終焉の時を過ごすための支援、「なにをしてきた人か」「なにを大切にしてきた人か」という作業療法士の視点が重要度を増すと考える。本講演では、作業療法の理論や哲

学に基づいて、終末期や終焉の時の作業療法の専門性や役割、作業の持つ力について考えたい。

## 略歴

---

氏名：三木 恵美（みき えみ）

現職：関西医科大学 リハビリテーション学部 准教授

広島生まれ、広島育ち。大阪府枚方市在住。

家族は、夫、長女（大学3年）、息子（大学1年）、次女（高校2年）、柴犬2頭。

2020年4月より枚方市で長女・息子と暮らしている。週末は、広島で夫、次女、犬と共に過ごす。

### 【学歴】

1994-1998年 広島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻（保健学学士）

2005-2007年 広島大学大学院 保健学研究科 博士課程前期（保健学修士）

2007-2012年 広島大学大学院 保健学研究科 博士課程後期（保健学博士）

### 【職歴】

1998-2002年 医療法人のぞみ

2002-2005年 三菱三原病院

2005-2011年 整形外科ペインクリニック等で非常勤勤務

2011-2020年 広島大学大学院 医系科学研究科 助教

2020-2021年 関西医科大学 リハビリテーション学部設置準備室 准教授

2021年-現在 関西医科大学 リハビリテーション学部 准教授

### 【資格】

認定作業療法士

介護支援専門員

### 【代表的論文・著書】

- 三木恵美：【特集 作業療法士による看取り】最期までよりよい作業的存在であり続けることを支える作業療法. 作業療法ジャーナル 54(3) 239-242 (2020)
- Emi Miki, et al. (2016). Validity and reliability of the Japanese version of the FIM plus FAM in patients with cerebrovascular accident. Scandinavian Journal of Occupational Therapy 23(5) 398-404.
- Emi Miki, et al. (2014). Feasibility and efficacy of speed-feedback therapy with a bicycle ergometer on cognitive function in elderly cancer patients in Japan. Psycho-oncology 23(8), 906 - 913.
- Emi Miki, et al. (2013). Clinical usefulness of the Frontal Assessment Battery at bedside (FAB) for elderly cancer patients. Supportive Care in Cancer 21(3) 857 - 862.
- 三木恵美・岡村仁（監訳）：がんと緩和ケアの作業療法. 三輪書店（2013） ISBN:9784895904346